



東アジアのなかの日本

- 古地図と文献に見る交流の風景 -

平成18年11月10日(金) ~ 17日(金)

於：神戸大学社会科学系フロンティア館

展示品目録

1. 古地図に見る東アジア

16世紀から19世紀までの世界地図ならびに中国・朝鮮の地図を紹介
します。

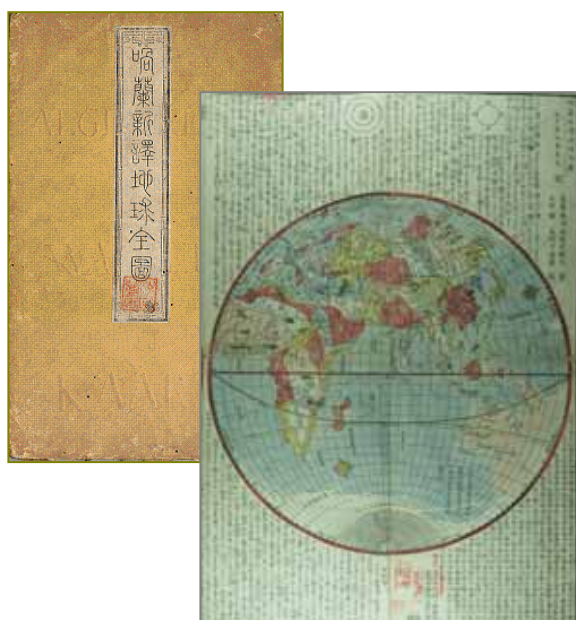
日本に伝わった世界地図にはいくつかの系統があります。一つは
1602年にマテオ・リッチ(利瑪竇)によって中国で刊行された『坤輿(こん
よ)万国全図』をもとにしたもので、模写図やそれを手本とした異版が幕
末にいたるまで数多く刊行されました。

もう一つは『啁蘭新訳地球全図』のような東西両半球図として描かれた
もので、18世紀中期の蘭学の勃興に伴い、著しく発展した地理知識に
もとづいて刊行されました。

幕末には『新刊輿地全図』のようなメルカトル図法による世界図も刊行
されるようになり、明治になってからも大きな影響力がありました。



1-6 万国地球分図



1-2 啁蘭新訳地球全図



1-8 新刊輿地全図(部分)

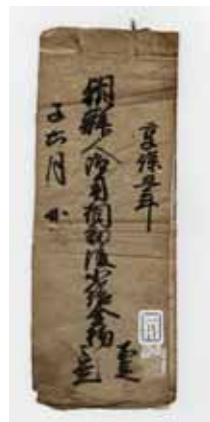
No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
1-1	アブラハム・オルテリウス <i>Asiae nova descriptio</i>	地図	1567 or 1570 ?	16世紀オランダで出版されたアジア地図。ヨーロッパでは、アジアの北部および中央部はまだ未知の土地であった。	海事科学分館
1-2	オランダシヤクチキョウゼンズ 鳴蘭新訳地球全図	地図	1796(寛政8)年 作:橋本宗吉	18世紀末に日本で刊行された世界地図で、東西が二つの半球で描かれている。未だオーストラリア大陸の東側が不明であった時代の世界地図が基となっている。	田田文庫 (社会科学系図書館)
1-3	チキョウバンコクサンカイヨ チセンズセツ 地球万国山海輿地全図説	地図	1788(天明8)年頃?作:長久保赤水	マテオ・リッチの『坤輿万国全図』をもとにして日本で刊行された世界地図。	
1-4	サンセンセカイハヤミバンコクス 三千世界早視万国図	地図	19世紀半ば?	幕末開国期に流布した一般大衆向け世界地図。1-3『地球万国山海輿地全図説』をもとにして描かれている。	
1-5	シセイヨチゼンズ 新製輿地全図	地図	未詳(江戸時代未明?)	東西の両半球に描かれた世界地図。1835年のフランス製地図を参考にした、との記述がある。	
1-6	万国地球分図	地図	1856(安政3)年刊?図: 橋本玉蘭斎	地球儀風の東半球図から始まり、両半球世界図、アジアなどの各大陸図と続く地図帳形式の世界地図。	
1-7	シンセンバンコクウカイス 新編万国航海図	地図	1862(文久2)年 校正:スネル(和蘭) 翻訳:武田簡吾	イギリス人庸普爾地(John Purdy)氏が1845年に作成した地図を、1858(安政5)年に沼津の医師武田簡吾らが翻訳刊行したものである。	
1-8	シンカンヨチセンズ 新刊輿地全図	地図	1861(文久1)年 訳編:佐藤政養	幕末を代表するメルカトル図法による世界地図。原図は1857年のオランダ製の航海用地図。	
1-9	世界航海図	地図	1875(明治8)年 訳述:石村貞一	明治になって出版されたメルカトル図法による世界航海図。	
1-10	アンシヤセカイチス 暗射世界地図	地図	1875(明治8)年序 訳述:塩津貫一郎	アジアやヨーロッパなどが見開きのページで表示されるように綴られた地図帳。国名は漢字で表記されている。	
1-11	ヘンヨウバンカイスコウ 近藤重守『辺要分界図考』全8冊	挿絵 (地図)	1804(文化1)年序	近藤重蔵(守重)が寛政10(1798)年にクナシリ島・エトロフ島を探検し、日中韓の文献や地図資料、漂流民の話などを参考にしてまとめられた。	
1-12	万国之絵図	地図	未詳	北は万里の長城、南は広東省、西は湖北省の武漢(武昌・漢陽)や山西省の大同と現在の中国の東側四分の一程度の範囲を描いた中国図。	
1-13	ダイミンキョウヘンバンコクシンセキロテイセンズ 大明九辺万国入跡路程全図	地図	1663(康熙2)年	本図は中国で『天下九辺万国入跡路程全図』として刊行されたものを『大明九辺万国入跡路程全図』の名で日本で翻刻したものである。	
1-14	モロコシキダイシユウケンエンカチス 唐土歴代州郡沿革地図	地図	1835(天保6)年	中国の地名を時代ごとに綴った地図帖。寛政元(1789)年に長久保赤水が刊行した。当館所蔵はその模倣版のひとつで天保6年に刊行されたもの。	
1-15	コキハチドウチョウセンコクサイケンセンズ 五畿八道朝鮮国細見全図	地図	1874(明治7)年	明治期に日本で出版された朝鮮の地図。	
1-16	チョウセンセイヒョウナラビニゼンズ 朝鮮世表并全図	地図	1806(文化3)年 田仲宣.校,長田愚侯.補	江戸時代に刊行された朝鮮の地図と概説。三韓、新羅、高句麗の簡単な歴史、日本、中国、朝鮮の治世(年代)の対応表、ハンブルとアイウエオの対応表、朝鮮通信使の来訪記録など概略がこれだけでわかるようになっている。	

2. 近世の日本と東アジアの交流

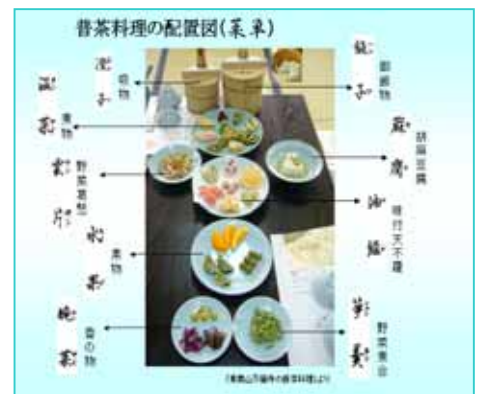
寛永12(1635)年に徳川幕府は、貿易を長崎に限り、日本人の海外渡航・帰国を禁止しました。この後約200年間は鎖国の時代とされています。しかし、この間まったく海外との交流がなかったということではなく、朝鮮・琉球とは通信、中国・オランダとは通商の関係を築いていました。通信とは、国家間の正式な外交が結ばれている関係であり、通商とは、貿易のみが行われている関係をいいます。



2-3-4 『日本漂流譚』挿絵より



2-2-6『朝鮮人御用相勤後小繕金物不足之覚』



普茶料理の配膳図

2-1. 通信・通商の記録と航路

江戸時代における代表的な外交記録と航路に関する資料を紹介します。

近世の東シナ海を航海していた船は風に頼るしかない帆船でした。中国から長崎までの航海日数は、南京・上海からは6～20日、寧波からは8～14日、台湾からは16～19日、広東からは16～25日と順風逆風によって日数が異なりますが、ほぼこのくらいであったようです。福州と那覇の間を航海した冊封船も『琉球国志略』をみると8～17日程度かかったようです。自然相手の危険な渡海ののち、日本にたどり着いた様子がわかります。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-1-1	『通航一覽』全8巻	図書	1853(嘉永6年)[復刻は1912-1913年]	19世紀半ばに徳川幕府によって編纂された近世外交史料集成。	国際文化学図書館
2-1-2	ソウホカイツウショウコウ 西川如見『増補華夷通商考』全5冊	版本	1708(宝永5年)	江戸時代中期の実用的世界地理書。巻一と巻二は中国地誌、巻三は朝鮮・琉球・台湾となっている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-1-3	金約翰輯(英國) 傳蘭雅(英國) 金楷理(美國) 王徳均(懷遠)『海道図説』全10冊	版本	未詳	中国沿岸、揚子江および日本海などの航路の案内書。イギリス人が編修し、中国語に訳されている。	
2-1-4	西日本航路の図	挿絵	1836(天保7年) 醉雅子『増補海陸行程細見記』	江戸時代後期の日本国内の航路案内。今で言う旅行ガイドブックで、ハンディタイプとなっている。	
2-1-5	針路図	挿絵	周敬煌『琉球国志略』全6冊	中国から琉球までの冊封船の航路図とその記述部分。	

2-2. 朝鮮通信使一戦乱から修好へ

豊臣秀吉による文禄・慶長の役(壬辰・丁酉倭乱)は、朝鮮半島に大きな被害をもたらすと共に、日本・朝鮮両国の国交をも中断させました。しかし秀吉の後を継いだ徳川家康は、朝鮮との国交再開を望み、以降、江戸時代を通じて十二度に渡り、通信使が朝鮮より日本へと派遣され、対等な立場での両国関係が結ばれました。

通信使一行は各地で詩文の応酬や筆談を行い、主に文芸・儒学・医学などの面において、豊かな実りをもたらしました。また、海禁政策下の当時の庶民にとっては、数十年に一度、異国から訪れる通信使の華麗な行列を見物することは、一大イベントでもありました。

ここ神戸は通信使の停泊地とされ、様々な記録が残されています。当館所蔵の「村上文書」からは、通信使に対する豪華な接待の一方で、様々な賦役が課され、庶民にとって大きな負担となっていた様子が読み取れます。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-2-1	『朝鮮物語』	版本	1849(嘉永2年) 大河内秀元	著者の大河内秀元は、豊後臼杵城主・太田一吉(?-1617)配下の武士で、当書はその従軍の際の記録である。図は、1597(慶長2)年8月、南原攻城戦の布陣図。	社会科学系図書館
2-2-2	チョウヒロク 『懲毖録』	版本	柳成龍	著者柳成龍は李朝の高官。本書は、内外の実情や戦乱の惨禍を冷静な筆致で書き留めた実録。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-2-3	『朝鮮来朝記』	版本	1748(延享5)年	1748(延享5)年、第10回通信使の記録。	
2-2-4	『朝鮮人來朝記』	写本	1748(延享5)年	1748(延享5)年、第10回通信使の記録。写本ではあるが、彩色の挿絵も掲載されている。	
2-2-5	チョウセンツウシンシイコウザモク 『朝鮮通信使一行座目』	版本	1764(宝暦14)年	1764(宝暦14)年、第11回通信使の記録。一行の人名が、序列順に列挙されている。全文に渡って朝鮮音の振り仮名が記されており、興味深い。	
2-2-6	チョウセンシヨウヨクアイツノチヨツロイカナモフクノ 『朝鮮人御用相勤後小繕金物不足之覚』	写本	1720(享保5)年	1720(享保5)年、第9回通信使の記録。	村上文書 (社会科学系図書館)
2-2-7	『御用御触状留帳』	写本	1808(文化5)年	役所から摂津国八部郡小野村へ宛てた触書(ただし文面は全国一律)。1808(文化5)年4月26日の日付あり。	
2-2-8	オソナガラカツケフモツテネガイアゲタマツソウロウ 『乍恐書付ヲ以奉願上候』	写本	1808(文化5)年	摂津国八部郡に属する計19ヶ村が連名で役所に提出した文書の下書きと思われる。1808(文化5)年6月10日の日付。	
2-2-9	『朝鮮信使対州込来聘二付御国高役金組合取集帳』	写本	1808(文化5)年	摂津国八部郡灘組11ヶ村が提出した、村ごとの臨時税の帳簿。1808(文化5)年10月上納とある。	
2-2-10	『朝鮮人來聘御用向相済御帰府之節人馬足銭割方兵庫津留方ヨリ充米書取』	写本	1811(文化8)年	幕府の使節が対馬から江戸へと帰る際に課された臨時税について、村ごとの金額を書き記した帳簿。	

2-3. 漂流と漂着ー江戸時代の異文化体験

四方を海にかこまれた日本では、漂流して九死に一生を得、生還した話は少なくありません。かつ、外国へ行くことが厳禁とされていた鎖国時代には、異国漂流談は珍しく、人々の好奇心を刺激し、たくさんの方の写本を残しました。また反対に、日本をわざわざ目指してきた船も長崎以外の思いもかけない土地に漂着することがありました。江戸時代の貿易というとオランダとの貿易が知られていますが、日中貿易も存在し、海難に遭遇した中国船がある日、日本の浜辺に姿をあらわすこともありました。漂民と日本側のやりとり、土地の役人と幕府間、役人と村方間など、その漂着船の扱いについて交わった様々な文書が残されています。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-3-1	『唐国漂流直物語』	写本	未詳(江戸時代)	1826(文政9)年3月越前国の「宝丸丸」が航行中に漂流。揚子江河口付近に漂着し清国船で帰国。挿絵「玉牡丹」は「大奥より土産ニ貰候品 緒構成切レニ而縫立也」とあり。	海事博物館(海事科学図書館)

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-3-2	トクタイセンヒンゴ 野田笛浦『得泰船筆語』乾・坤		版本 未詳(江戸時代?)	1826(文政9)年、遠州榛原郡下吉田村に清国船「得泰船」が漂着した記録。当頁では「楊どの(船主)には馴染みの奴はありますか」と尋ねている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-3-3	トウセンヒョウウチヤクワラフレウツシ 『唐船漂着浦触写』	写本	1826(文政9)年	浦触とは港への通達のこと。勘定奉行より、得泰船の護送を仰せつけられた羽倉外記手代野田常一他、紀伊・和泉・摂津の浦々、村々役人中らに対して出された触。	
2-3-4	第一譚 越前の人韃靼に漂流し、明韓を経て故郷に帰る	版本	1892(明治25)年 石井民司『日本漂流譚』第1	江戸期の漂流譚を少年読み物としたもの。	
2-3-5	シジュウバ フセダウラ コヘシフネ タイワノコエ 『志州鳥羽布施田浦小平治船台湾国江 フキナガシキコマデノト 吹流帰国迄之事』	写本	1771(明和8)年写	1757(宝暦7)年、志摩国英虞郡布施田村の小平治の漂流記。	
2-3-6	イヨクヒョウリュウダン 『異国漂流談』	写本	1790(寛政2)年	1774(安永3)年11月、仙台の二千石積船が四ツ蔵の濱から出帆し、久地浜沖にて遭難、その後広東を経て1780(安永8)年7月に帰国したその間の経過を記録したもの。	海事博物館(海事科学図書館)
2-3-7	トウセンヒョウウチヤクワラ 『唐船漂流一件』	写本	1846(弘化3)年	この本は別種の漂流についての記録4件から成る内容だが、これは元順号の船主沈敬瞻の感謝状。	
2-3-8	ナンキンセンヒョウウチヤクノフミ 『南京船漂着ノ文』	写本	1780(安永9)年	1780(安永9)年4月、安房国朝夷郡惣戸村に漂着した船「元順号」について、惣戸村名主善左衛門から、浦賀番所に注進(急いで申し上げた)した文書の写し。	住田文庫 (社会科学系図書館)

2-4. 名勝図会から見た北京や琉球

東アジアから文物や書籍が多く伝わり、知識人達により研究され、正確性を重視した地理書や海外概説本などが多くだされました。一方で、東アジアの事柄が、歌舞伎の題材にされたり読本として出版されますが、庶民には誤った事柄として伝わった所もあります。ここでは、名勝図会などの挿絵から江戸時代の日本に伝わった中国北京や琉球の様子を紹介します。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-4-1	北京の図	地図	1850(嘉永3)年 東條文左衛門著『清二十八年疆域全図』	清朝時代の北京の総図である。江戸時代後期の考証学者である東條琴台(通称文左衛門)が、著した地図である。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-4-2	キロコシメイシヨウズエ 『唐土名勝図会』全6冊	版本	1806(文化3)年 岡田玉山編述	本書は、中国の名勝を書き記したもので、唐土とは、日本から中国をさして呼んだ名である。近世板刻密画の開祖といわれた画家、岡田玉山が編述したものである。	
2-4-3	チュウザンデンシンロク 『中山傳信録』全6冊	版本	1766(明和3)年 徐葆光編	本書は、1719年に琉球を訪れた中国人徐葆光が帰国後、報告書として刊行し、後に日本でも出版された書。中山とは、琉球の異称である。	
2-4-4	女市の図	挿絵	1790(寛政2)年 森嶋中良著『琉球談』	本書は、琉球国の概要、事物風俗などを、戯作者であり蘭学者としても有名であった森嶋中良が、2-4-3『中山傳信録』や『琉球事略』、『三国通覧図説』などを参考に著したものである。『中山傳信録』の絵をそのまま引用している。	

2-5. 東アジアからの贈りもの

日本はいつの時代も、中国から、また中国・朝鮮を通して東アジア諸国の文物・文化を受け入れてきました。江戸時代、日本が鎖国していた期間も、中国とは通商していましたし、朝鮮とは国交がありました。開国してからは、欧米諸国の影響を受けますが、依然として東アジアと密接に繋がっています。ここでは東アジアから伝わった文物・文化を“東アジアからの贈りもの”と題して、いくつか取り上げます。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
2-5-1	シンコクナンキンシヨウコウヨコマケン 『清國南京人遊行横濱拳』	錦絵	明治初期 芳虎画	野球拳によく似た遊戯は「横浜拳」と呼ばれ行われていたらしい。浮世絵師歌川芳虎の錦絵。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-5-2	ゾウシ 『象志』	版本	1729(享保14)年	1728(享保13)年6月、2頭の象が長崎にやって来た。象が連れてこられた経緯などを詳しく紹介。	
2-5-3	テンシカハクダイゾウバシヤン 『天竺舶来大象之寫真』	版画	未詳	1863(文久3)年に日本に連れてこられた象の版画。	
2-5-4	ニホンシヤクシヨウクサノアライ 『日本支那西洋料理独案内』	版本	1887(明治20)年 吉田正太郎編	日本・支那・西洋料理と分けてあり、支那料理の中で“卓子と普茶”の料理法が細かく書かれている。	
2-5-5	『当世料理法』	版本	1891(明治24)年	明治半ばの朝鮮料理・支那料理・日本料理それぞれの代表的な料理のレシピを詳しく紹介している。	
2-5-6	ヒヤクチン 『いも百珍：新製料理』	版本	1816(文化13)年	天明年間の料理本「○○百珍」の中の1冊で、いも(甘蔗)料理名と123種類もの作り方を紹介。	
2-5-7	『養蚕事実』(上・中・下)合冊	版本	1873(明治6)年	2-5-8『養蚕秘録』等を参考に作られた養蚕指導書の1冊。	
2-5-8	上垣守国著『養蚕秘録』全3冊	版本	1803(享和3)年	江戸時代の代表的な養蚕指導書。	
2-5-9	萩田筱夫著『世界の富：産物往来』	版本	1871-72(明治4-5)年?	世界各国の国産目録であって、一名物産往来と謂い、商売往来と同一種類のもの。	

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	
2-5-10	『各国産物往来』(上・下) 合冊	版本	1873(明治6)年 鈴木吉兵衛原撰	世界各国別にその物産名を書きつらねた往来物。『世界婦女往来』『世界の富』『万国往来』と共に世界全域を対象とした往来物で特殊型とされている。	住田文庫 (社会科学系図書館)
2-5-11	セカイオンナオウライ 『世界婦女往来』	版本	1873(明治6)年 山本与助著 荻田篁夫:書	女性の風俗、結婚の在り方をとらえ、世界各国を紹介し、女性に奨励している本である。	
2-5-12	『万国往来:銅版画入』	版本	1871(明治4)年 四方芝平著	世界を航海する行路に従って、その地域ごとに地勢・風土・習慣・政治・政体・人情・物産などについて概略を把握できるように編集されている。	

3. 東アジアの近代化と日本

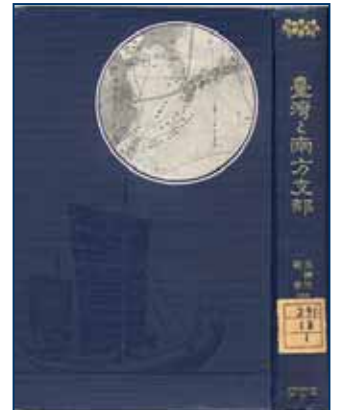
1840年のアヘン戦争により、中国は広州、厦門(アモイ)、福州、寧波(ニンポー)、上海の5港を開港しました。租界の誕生、治外法権、関税自主権の放棄、片務的最恵国待遇条項の承認など厳しい条約下で、中国が欧米列強によって半植民地化されていく様子は、日本にも大きな衝撃と危機感を持って伝えられ、開国、明治維新と近代化を進める原動力になっていきました。



3-1-7 『外邦太平記』より



3-2-7 『亜細亜大陸横行』



3-3-4 『台湾と南方支那』

3-1. アヘン戦争以後の中国と日本

アヘン戦争から太平天国までの約20年間の中国の様子を、当時日本で出版された書物から紹介します。幕末から明治維新にいたるまでの思想的な影響を、志士たちは『海国図志』のような中国の書物からも受けていました。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-1-1	アフォウイブン 塩谷宕陰『阿芙蓉彙聞』2冊(部分)	記事	[1847(弘化4)年自序]	アヘン戦争に関する各種風説書を編纂したもの。当時の日本の各界に重視され、最良の資料集として刊行され広く伝わった。著者の塩谷宕陰は老中水野忠邦に仕えた学者。	住田文庫 (社会科学系図書館)
3-1-2	於虎頭門焼棄鴉片煙土図	挿絵	1849(嘉永2)年 嶺田楓江『海外新話』全5冊	本書は幕府と民衆がアヘン戦争の教訓を学び、海防を強化して外敵の侵略を防御することを求める目的で書かれた。	
3-1-3	於台湾島討取夷船図	挿絵	1849(嘉永2)年 『海外新話拾遺』全5巻	3-1-2『海外新話』を補充したもの。作者は種菜翁となっているが本名は不明である。	
3-1-4	魏源『海国図志』全100巻	版本	1876(光緒2)年	林則徐の編集した『四洲志』の全文と、歴代の史志、中国と外国の古今の学者の著述、各種上奏文を引用して魏源が編集した世界と海防に関する百科全書。	
3-1-5	林則徐『海国図志 籌海篇』全2巻	版本	1854(嘉永7)年	幕末の著名な学者、塩谷宕陰と箕作阮甫が3-1-4『海国図志』に訓点をほどこし出版。	
3-1-6	エイカンシリヤク 徐繼畲『瀛環志略』全10冊	版本	1861(文久元年)	『海国図志』と同時期に中国で出版された世界地理の翻刻。1848(道光28)年に完成し、1850(道光30)年に刊行された。日本へは1859(安政6)年伝来の記録がある。	
3-1-7	呉陣友謀て柳天龍驚ける図	挿絵	1854(安政元年)年序 磐上軒主人『外邦太平記』全5冊	挿絵は清軍と太平天国軍との戦いの一場面。	
3-1-8	上海雑記(納富次次郎著)	記事	1946年 『文久二年上海日記』	1862(文久2)年、徳川幕府は千歳丸を上海に派遣した。「上海雑記」は佐賀藩納富次次郎の見聞録である。	国際文化学図書館

3-2. 日本人の見た東アジア

幕末から明治末期にかけて、東アジアを訪れ、記録を残した日本人は多くいます。職業は官吏、政治家、学者、作家、冒険家、実業人など多岐に涉り、その足跡は中国の辺境やモンゴル、チベットにまで及んでいます。彼らの見聞記は同時代の東アジアの風土、社会、人々の暮らし、風俗、政治・経済等のありようを伝える上で、また、この時代の日本人の東アジア及びその地に暮らす人々に対する考え方を知る上で、貴重な資料です。ここでは、主に明治時代後期に、学術調査や視察等の様々な目的で東アジアの国々を訪れ、執筆・出版された図書を展示しています。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-2-1	トウア ジロン 『東亜時論』	雑誌	1898-99(明治31-32)年	日清戦争後における日中文化交流事業団体である東亜同文会が発行した最初の機関誌。	社会科学 図書館
3-2-2	シチゾウハチエチユウキ 徳富猪一郎著『七十八日遊記』	図書	1906(明治39)年	徳富蘇峰(1863-1957)が、明治39年5月26日から8月10日まで朝鮮半島、中国北部、揚子江流域を旅した記録。	社会科学 図書館
3-2-3	安井正太郎編著『湖南』	図書	1905(明治38)年	風光明媚であるとされた湖南省について詳細に記された研究書。	人間科学 図書館
3-2-4	チベツリョウユウキ 河口慧海著『西藏旅行記』	図書	1904(明治37)年	河口慧海(1866-1945)が、32歳の時インドからチベットへ入国し帰還するまでの経験を綴った冒険旅行記。	社会科学 図書館
3-2-5	カンユウニツキ 黒田清隆編『環遊日記』	図書	1887(明治20)年	黒田清隆(1840-1900)が明治19年-20年に行った世界周遊の日誌。上編に、釜山、元山津へ立ち寄った際の記録が図入りで詳細に記録。	住田文庫 (社会科学 系図書館)
3-2-6	ユウサイニツキ 『航西日記』	図書	1871(明治4)年	実業家渋沢栄一(1840-1931)が、パリ万国博覧会の使節団に加わりヨーロッパへ渡航した際の日記。	社会科学 図書館
3-2-7	中村直吉、押川春浪共編『亜細亜大陸横断(五大洲探検記 1)』	図書	1908(明治41)年	明治時代に日本人として初めて世界一周無銭旅行を果たしたと言われる中村直吉(1865-1932)の亜細亜大陸横断記。	社会科学 図書館
3-2-8	高瀬敏徳著『北清見聞録』	図書	1904(明治37)年	高瀬敏徳が、明治末期に中国北部を旅した記録。中国に関する様々な事柄(料理、気候、風習等)が述べられている。	国際文化 学図書館
3-2-9	シンカンマンユウヨレキ 勝田主計著『清韓漫遊余瀝』	図書	1910(明治43)年	大蔵大臣、文部大臣などを歴任した勝田主計(1869-1948)が、明治42年に中国・韓国を旅行した時の記録。	社会科学 図書館
3-2-10	モウコリコウ 鳥居竜蔵著『蒙古旅行』	図書	1911(明治44)年	多大な業績を残した人類学者・考古学者の鳥居龍蔵(1870-1953)が、明治末に妻と1歳の子どもを連れて、東蒙古を調査研究した時の日記。	社会科学 図書館

3-3. 日本に紹介された東アジア

明治になると、日本人による現地での情報収集や調査を踏まえた、詳細な地誌や社会・経済事情の概説書が刊行されるようになりますが、東アジアへの進出という、当時の日本の国策を色濃く反映したものも少なくありません。ここでは、そうしたもののうち、明治後期から大正初期に著された数点を展示します。併せて、明治後期の高等小学校と中学校用の地理教科書を展示し、当時の初・中等教育の場における、東アジア事情の扱われ方を紹介します。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-3-1	シンゾクキブン 『清俗紀聞』全6冊	版本	1799(寛政11)年	長崎奉行の中川忠英が通訳官を動員し、渡来した清国商人から、福建・浙江・江蘇地方の風俗慣行文物を取材し、編纂・解説したものである。	人文科学 図書館
3-3-2	清国駐屯軍司令部編『北京誌』	図書	1908(明治41)年	『天津誌』と同様の経緯で、明治37年より編纂が始まり、『天津誌』に先んじて明治41年、清国駐屯軍司令部を編者として刊行された。	小林文庫 (人文科学 図書館)
3-3-3	清国駐屯軍司令部編『天津誌』	図書	1909(明治42)年	明治36年、天津駐屯軍司令官仙波太郎少将の発案で編纂が開始され、日露戦争を挟んで明治42年、清国駐屯軍司令部を編者として刊行された。	国際文化 学図書館
3-3-4	田中善立著『台湾と南方支那』	図書	1913(大正2)年	田中善立が長い福建・台湾歴のもと、彼の地の歴史、治政、産業等について概説したものである。	人間科学 図書館
3-3-5	東亜同文会編『支那省別全誌』第1巻 広東省 附香港 澳門	図書	1917(大正6)年	東亜同文書院における学生の現地調査の報告書をもとにまとめられた、5省を除いた当時の中国18省の省誌。	社会科学 系図書館
3-3-6	『小学新地理』全4巻	版本	1901(明治34)年	高等小学校用地理教科書。巻1, 2が日本地理、巻3が外国地理、巻4が補習編という構成。	人間科学 図書館
3-3-7	志賀重昂著『地理教科書 外国篇』上・中・下 再訂改版合本	図書	1906(明治39)年	中学校用地理教科書。志賀重昂は地理学者、国粹主義の論陣を張り、『日本風景論』の著者として有名。	社会科学 図書館

3-4. 明治期の中国語教育

日本における中国語教育は、江戸時代の長崎唐通事に始まり、明治の新政府のもとに新しい形の中国語教育が生まれ今日にいたっています。「中国語」は明治以降、「漢語」「清語」「支那語」あるいは「華語」などと、それぞれの時期の中国観を背景にしてさまざまに呼称されてきました。ここに展示した中国語テキストは明治期の中国語教育の多様さを示すものであると同時に、日中関係あるいは日本の対アジア観を色濃く反映したものとと言えます。中国語教育の変遷をたどることを通して、日中関係の歴史の断面をご紹介します。

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-4-1	シンコウイテイコケンシシヨウ 『清語階梯語言自選集』	図書	T. F. Wade	中国音表記法「ウェード式ローマ字」を創案したトーマス・F・ウェードが北京のイギリス公使館の見習生教育用に刊行した中国語会話(北京官話)テキスト。	社会科学 系図書館
3-4-2	『増訂亜細亜言語集: 支那官話部』	図書	1904(明治37)年 廣部精	日本人の手になる最初の中国語学習書。3-4-1を底本としている。	住田文庫(社会科学系図書館)
3-4-3	『総訳亜細亜言語集: 支那官話部』(再版) 全4冊	図書	1892(明治25)年 廣部精	3-4-2の総訳本。	住田文庫(社会科学系図書館)

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
3-4-4	ジジシウケウカヘンシキレンジュ 『自選集平仄編四声連珠』	図書	1886(明治19)年 福島安正著	3-4-1の平仄編の文字ごとに中国の官制、交易、風俗などについて問答を展開したものの。	社会科学系図書館
3-4-5	『北京官話伊蘇普諭言』	図書	1879(明治12)年 中田敬義著	明治初年のベストセラー「通俗伊蘇普物語」を北京官話に翻訳したもの。東京外国語学校の教科書として用いようとした。	
3-4-6	カゴキホ 『華語跬歩』5版	図書	1907(明治40)年 御幡雅文著	1890(明治23)年、上海に設立された私学「日清貿易研究所」の中国語テキストと推定される。	
3-4-7	『増補華語跬歩総訳』全2冊	図書	1910(明治43)年 御幡雅文著	3-4-6の総訳本	
3-4-8	『急就篇』改訂	図書	1933(昭和8)年 宮島大八著	1904(明治37)年に「官話急就篇」と題して初版が刊行され、戦争終結までの間に百数十版を重ねた。	総合・国際文化学図書館
3-4-9	『日華語学辞林』	図書	1906(明治39)年 井上翠著	井上翠(1875-1957)はわが国の中国語辞典編纂の草分けとして知られ、生涯にわたって改訂に携わった。展示品はその最初期のもの。	社会科学系図書館
3-4-10	『官話指南』改訂	図書	1907(明治40)年 呉啓太、鄭永邦著	上級向け中国語会話テキスト、初刊は1882(明治15)年。両者は唐通事の流れを汲んでおり、外務省で通訳の任にあたった。	
3-4-11	『官話指南総訳』再版	図書	1906(明治39)年 呉泰寿著	3-4-10の総訳本	
3-4-12	『談論新編：北京官話』訂正5版	図書	1907(明治40)年 金国瓌著	東京外国語学校(新外語)のテキストとして刊行された。著者は外国語学校の中国人教師として来日し、本書のほかにもいくつかの中国語学習書を刊行している。	
3-4-13	『談論新編』訳本	図書	1910(明治43)年 岡本正文著	3-4-12の翻訳本。著者は東京外国語学校(新外語)一期生。	

4. 東アジアと神戸

神戸における華僑の活動や孫文関連資料、東シナ海航路の発展と貿易に関する資料を紹介します。

1868(慶長3)年の神戸開港は、近代神戸の国際港としての誕生でもありました。開港と同時に長崎から華僑が来神し、雑居地とされた居留地周辺に住み、貿易や海運業、食品販売など様々な仕事に従事しました。南京町や開帝廟など神戸の各所に中国ゆかりの地があります。



4-11 Nippon Yusen Kaisha Official Shippers' Guide



4-13 『支那事情』



4-10 伏見丸
Nippon Yusen Kaisha Hand Book of Information



No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-1	『神戸外国商館案内』	図書	1926(大正15)年	大正末の神戸市内の外国商館の案内。外国貿易に関係する業者の参考資料として編纂されたもの。	社会科学系図書館
4-2	『日華新報：中外貿易機関』	雑誌	明治～大正時代	1902(明治35)年ごろから月2・3回～月1回の頻度で神戸において編集・発行されていた新聞。	
4-3	『日華実業：神戸日支実業協会々報』	雑誌	大正～昭和初期	1917(大正6)年3月、呉錦堂らに神華僑の呼びかけで神戸日支実業協会が設立。西島はその嘱託職員となり、機関紙の編集主幹を務るようになった。	
4-4	西島函南稿「在日華僑に対する孫氏の感言」	記事	1913(大正2)年4月15日『支那』第4巻第8号	記事は孫文の歓迎会での演説を西島氏が傍聴した旨を日本語で記した後に、そのときの孫文の演説を漢文でそのまま筆録したもの。	

No.	展示資料名	種類	発行年、出典資料	コメント	所蔵館
4-5	大正13年11月28日県立神戸高等女学校(現在の兵庫県庁)で熱弁中の孫中山先生	写真	1980年『孫中山先生と兵庫県』	「大アジア主義」と題して講演したときの写真。	国際文化学図書館
4-6	神戸市佐野旅館の広告	広告	1910年 上海出品協会編『江南事情：揚子江富源』	本書は1910(明治43)年、南京において開催された中国初の内国博覧会「南洋勸業博覧会」の日本向け案内書。	
4-7	南洋第1次勸業会「南京博覧会」	記事	1910(明治43)年7月『東亜同文会支那調査報告書』第1巻第1号	東亜同文会発行の雑誌に掲載された「南京博覧会」の記事。	社会科学系図書館
4-8	台湾定期航路開発一覧表	記事	1934年『大阪商船株式会社五十年史』	大阪商船による台湾航路の一覧。明治30年に開設された神戸基隆線は釜山丸・依姫丸・福岡丸の3隻で毎月3航海していた。	国際文化学図書館
4-9	上海大阪商船会社浦東碼頭と其の倉庫	写真	1906(明治39)年 森一兵『清国揚子江流域視察報告書』	上海での大阪商船の埠頭と倉庫の写真。	社会科学系図書館
4-10	11000ton class steamer on the European Line.ヨーロッパ航路(神戸、門司、長崎、上海、香港寄港)	写真	1916年 <i>Nippon Yusen Kaisha Hand Book of Information No.7</i>	写真は当時ヨーロッパ航路に就航していた伏見丸(10940トン)と思われる。	
4-11	Birdseye-view of HongKong	写真	1913年 <i>Nippon Yusen Kaisha Official Shippers' Guide</i>	日本郵船のガイドブックに掲載されている大正初期の香港の写真。本書は海外向けに英語で出版されており、日本郵船の就航している都市が写真付きで取り上げられている。	
4-12	明治二十七年至明治三十六年十箇年間本邦各港対清貿易額対照表	記事	1904(明治37)年『日清通商便覧』	明治中期の中国への港別輸出額の比較表。本書は日清通商の心得をまとめたもので、関係方や関税、度量などが細かく記されている。	
4-13	1907年対清貿易輸出・輸入港別	記事	1910(明治43)年 西島良爾著『支那事情』	本書は西島(4-2～4-4参照)が著し神戸で発行された。中国の地理・歴史・政治から交通・産業・風俗まで広く紹介した案内書であるが、特に商業について詳しく記されている。	
4-14	仁川港・プサン港・元山津3港の比較	記事	1906(明治39)年『韓国旅行報告書・天津雜貨視察復命書』	1905(明治38)年の夏に神戸高等商業学校が韓国と中国へ修学旅行を実施。当頁は韓国経済の調査報告書のなかから韓国の代表的な港3港を比較している部分である。	

5. 電子展示

「住田文庫」「王敬祥関係文書」ならびに、本学経済経営研究所の「新聞記事文庫」のデジタル版を本コーナーのPCで自由に散策いただけます。

「新聞記事文庫」

1912(明治45)年から60年以上にわたり営々と積み上げられた新聞記事切抜資料で、切抜帳にして約3,200冊、記事数は50万件以上という膨大なものです。旧植民地発行紙を含む多数の新聞を採録対象とし、専門家による選択・分類を経て切り抜いているのが特徴です。特に戦前期(記事数約40万件)においては、同種の事業が他に満鉄調査部しか見当たらず、満鉄のものが失われた現在では非常に貴重な資料です。

1999(平成11)年より、この貴重な資料をより多くの方に役立てていただくため、「デジタル版新聞記事文庫」事業に取り組んでいます。現在約14万記事をインターネットを通じ広く公開しています。

本展示会では、テーマに沿って印刷したファイルをご用意しました。



「王敬祥関係文書」

神戸大学電子図書館事業の一環として、兵庫県立歴史博物館が所蔵している「王敬祥関係文書」をデジタル化し、「王敬祥関係文書」を利用した神戸華僑に関する調査研究成果を、下記のご協力をいただき広くネットワーク公開するものです。約160点がデジタル資料として見ることができます。

(協力:神戸大学国際文化学部安井三吉研究室・兵庫県立歴史博物館・神戸華僑歴史博物館)

「住田文庫」

海運研究学者住田正一氏より、大正15年に神戸大学の前身である神戸高等商業学校に寄贈された海運海事史関係資料です。「住田文庫」のデジタル化作業は第1期(平成7年度～平成10年度)、第2期(平成11年度～)と進められ、第2期からはデジタル化だけでなく、その前作業として資料の修復も行っています。

現在120点がデジタル資料として見ることができます。

編集・発行: 神戸大学附属図書館 2006(平成18)年11月1日発行
 問合せ先: 情報サービス課情報リテラシー係
 Tel: 078-803-5313 Fax: 078-803-7355
 URL: <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/>